

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	経済学研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業科目でシラバスが作成され、授業内容に適した授業形態（研究指導・講義・実習等）を明示している。 ・修士論文の作成指導には、研究指導を担当する指導教授があたるが、修士論文の完成までに公開による中間発表会を2回実施し、指導教授のほか経済学研究科で講座を担当する教員が参加して論文の進捗状況を確認すると同時に、論文の問題点を指摘して、論文に対する厳格な指導と評価を行っている。また、「外国文献研究」、「文献調査研究」などの科目を設け、指導教授以外にも、学生の論文作成や研究活動を支援する体制を整え、丁寧かつ高度な教育・指導を行うことにより、文章力、表現力、発信力などを培っている。 ・博士論文の作成指導では、個々の学生が指導教授の下で各自の専攻分野の専門領域を中心に指導を受け、独創的な研究として通用しうる学位論文の準備・執筆に専念し、博士論文を完成させる。特に複数回にわたる学位論文中間発表会や研究会での報告、論文進捗状況報告など、適宜、適切な指導を行っている。 <p>中間発表会等において、指導教授以外から論文に対する問題点の指摘および指導、助言を受けることにより、論文評価の客観性を確保するとともに、多様な課題に対する学生の対応能力の育成を支援している。</p>
4-3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成にあたっては、教員によって精粗が生じないように記入上の留意事項等を明示し、周知を図るとともに、経済学研究科委員会において、シラバス記載事項のチェックを行う仕組みを整えている。 ・個々の教員の授業内容・方法とシラバスとの整合性について、経済学研究科委員会およびFD委員会で特に調査、チェック等は実施していない。教員、学生等からの要望等を聴取するなかにおいても特段の指摘がなされていない状況にあるので、齟齬は来していないと判断している。
4-3-3	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の方法と基準は、シラバスに評価する項目・評価基準・評価の割合を記入し、学生に周知を図っている。単位認定等については、大学院学則に定められており、『大学院の手引き』等に記載し、適切に行っている。
4-3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価アンケートは実施していない。 ・学生と教員・職員とのコミュニケーションの充実を図り、学生からの要望等を聴取するため、懇談会等を開催している。 ・2013年度に経済学研究科委員会の下にFD委員会を設置し、組織的なFD活動を開始した。FD委員会は、委員長に経済学研究科委員長が付き、委員には他に経済学専攻主任と経済学研究科委員会委員（教員）1名の計3名で組織している。FD活動の企画、実施は、FD委員会が経済学研究科委員会に諮って行い、結果を経済学研究科委員会に報告し、必要に応じて承認を得る。

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	・シラバス記載事項の統一が図られ、ウェブシラバスの記載内容の充実も図られた。
4-3-3	
4-3-4	・FD委員会が設置されて、FD活動を行う体制が整った。

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	・学生に対し、シラバス記載内容を周知徹底する。
4-3-3	・成績評価の方法と基準の設定が各授業担任者に委ねられており、GPAなどによる公平性・客観性が担保された評価が行われていない。GPAの導入が今後の検討課題である。
4-3-4	・学生の授業評価アンケートまたはこれに類する調査を実施する。 ・FD活動の回数や参加者を増やし、教員のFD意識を向上させる。

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

経済学研究科 2013 年度シラバス（冊子版） 経済学研究科 2013 年度ウェブシラバス 2013 年度第 1 回経済学研究科委員会議事録 第 1 回経済学研究科FD活動報告書 大東文化大学大学院学則 『大東文化大学大学院大学院の手引き 2013 年度』 『大東文化大学大学院経済学研究科教育研究上の目的及び学位論文審査基準』
--

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	学生に対し、シラバス記載内容の周知徹底を図る。	学生への周知度を測るためのアンケート調査を実施する。	→					
	GPAの導入を図る。	全研究科でGPAが導入され、各種の選考・表彰等において活用されている。	→					
	FD活動の回数と参加者を増やす。	2013 年度の数値を基準として、2014 年度以降の数値が上昇している。	→					
	学生の授業評価アンケートまたはこれに類するアンケート調査を実施する。	毎年度の実施報告書でその内容および結果が確認できる。						
14 年度 目標	シラバス記載内容について、より一層の充実を図る。	シラバス記載項目の未記入が解消されている。	→					
	シラバスの記載内容を学生に周知徹底するため、初回授業時にシラバスを学生に配布し、十分な説明を行う。	学生へのヒアリング調査を行い、周知度を測る。	→					
	GPAの導入について、全学への働きかけを行う。	GPAの導入に向けて、大学院研究科委員長会議または大学院評議会の下にGPA制度設計WG設置され、検討に着手している。	→					
	学生の授業評価アンケートまたはこれに類するアンケート調査を実施する。	FD委員会で検討のうえ、第 1 回アンケートを実施し、結果を公表する。						